毎週月曜日更新

カタカタ通信

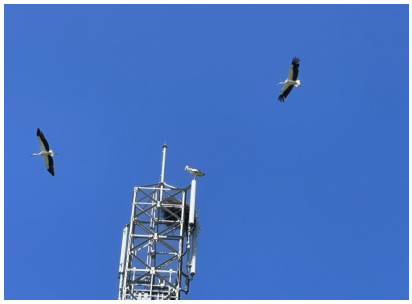
第１８７号

「足環装着と暑さ対策 」

２０２５年7月２８日

先日、茨城県神栖市で行われたコウノトリのヒナの足環装着に参加してきました。関東では今シーズン最後の足環装着で、作業当日は厳しい暑さの中での対応となりました。ちょうど先月、豊岡で受けた研修で「ヒナの熱中症対策」を学んだばかりだったため、それを現場でさっそく活かす機会にもなりました。今回はその経験をもとに、「ヒナの足環装着時の暑さ対策」をテーマに書いていきたいと思います。

地上３０メートル！



３羽いますが、どれも親ではありません

今回足環を装着したヒナは４羽。巣はなんと高さ約３０メートルの電波塔の頂上に作られていました。通常、巣塔の高さは１３メートルほどなので、倍以上の高さです。そのため、いつものように高所作業車でヒナを地上まで降ろすことが難しく、今回は滑車を使って１羽ずつゆっくりと地上へ降ろす方法がとられました。

箱に入って降りてくるヒナ

ヒナたちは作業員の方の手により保冷剤とともに保定帯に包まれ、箱に入れられた状態で滑車で降ろされます。この方法は高所作業車で行うよりもやや時間がかかります。そのため、保冷剤を使用していたとはいえ、地上に降りてきた時点で体温が４２℃を超えていたヒナもいました。コウノトリの平熱は３９～４１℃。それを超えると高体温症となり、命に関わるリスクが出てきます。まずは体温を下げる対応が必要でした。

くちばしを冷やします

車内で体温が下がるまで待ちます

鳥類は羽毛に覆われており、熱がこもりやすく、いったん体温が上がるとなかなか下がりません。さらに汗をかくことができないため、 体温調節はくちばしや脚など、羽毛のない部分を通して行われます。そのため、クーラーのきいた車内に運び込み、保定帯をゆるめ、脚やくちばし、翼の下に保冷剤を当て、扇風機を用いて冷やしました。こうした対応により、ヒナたちの体温は徐々に落ち着き、全羽無事に足環を装着することができました。先に足環装着が終わったヒナも体温が41℃以下になっていることを確認したうえで、再び滑車を用いて巣に戻されました。

今回はヒナの数が多く、巣も非常に高所にあり、さらに夏本番に近い時期だったことから、作業としては難易度が高かったのですが、作業に当たったみなさんとの連携により無事に終えることができました。

見学者の方からは「飼育係がそんなこともやるんですね」と声をかけられることがあります。しかし、こうした現場で改めて感じるのは、ヒナの体調を守るために、飼育係の目――つまり経験・知識・技術がとても重要だということです。日々の地道な積み重ねが、未来のコウノトリたちにつながる場面で生きてくる。それを実感できるこうした機会は、大きなやりがいでもあります。今後も、状況に応じて工夫を重ねながら、関係者の皆さんと協力し、安全に取り組んでいけたらと思います。

空と花は水浴びで身体を冷やしています

天空の里　鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：ほっぴー